

# 令和8年度 屋良小学校 校内研修計画

## 1 研究主題

「かでな型学力」を身につけた児童生徒の育成  
～ICTを活用した探究的な学習プロセスを通して～

## 2 研究主題の設定理由

平成28年答申では、2030年の社会と子供たちの未来について「社会の変化は加速度を増し、複雑で予測困難となってきており、しかもそうした変化がどのような職業や人生を選択するかにかかわらず、全ての子供たちの生き方に影響するものとなっている。社会の変化にいかに対処していくかという受け身の観点に立つのであれば、難しい時代になると考えられるかもしれない」と述べている。これからの未来社会を子供たちが切り開いていくために、この答申を受け改定された学習指導要領では、「自分自身の良さや可能性を認め、未来へ向け自らが社会を創り出していく『持続可能な社会の創り手』となる」指針が示された。人生100年時代を生きる子供たちに必要な資質・能力とは何か、嘉手納町全体で見極めながら、子供たち一人一人が夢や希望を抱き、将来「幸せになるために」嘉手納町では、未来の嘉手納町民の姿を描き、「かでな型学力」（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）を身につけた児童生徒の育成を目指して、授業のイノベーションを図る必要がある。

文部科学省、武藤久慶（2023）は、「『令和の日本学校教育』は『学習指導要領の着実な実施』『学校における働き方改革』『GIGA スクール構想』を三位一体で進めることで『正解主義』や『同調圧力』への偏りから脱却し、『一人一人の子供を主語』にする教育を実現していこうというものである。」とし、「その際のキーワードが『個別最適な学び』と『協働的な学び』である。」と述べている。令和3年答申では、目指すべき新しい時代の学校教育の姿として「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」が提言された。これからの学校教育においては、子供がICTも活用しながら自ら学習を調整しながら学んでいく事ができるよう、「個に応じた指導」を充実させることが必要とした上で、「『指導の個別化』と『学習の個性化』を教師視点から整理した概念が『個に応じた指導』であり、この『個に応じた指導』を学習者視点から整理した概念が『個別最適な学び』である」とした。さらに、「『個別最適な学び』が『孤立した学び』に陥らないよう、これまでも『日本型学校教育』において重視されてきた、探究的な学習や体験活動などを通じ、子供同士で、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する『協働的な学び』を充実することも重要である」としている。

嘉手納町では、これまで「嘉手納授業改善いきいきプラン」で掲げられた「嘉手納の探究型授業」の推進に取り組んできた。嘉手納の探究型授業は、基本的には問題解決的な学習を授業で展開し、児童生徒が主体的に考え、問題解決能力を育んできた。さらに、その各学習過程において、ICTを効果的に活用することによって、子供は教科書や図書資料に加え、自分の興味・関心を追求できるツールを手に入れることで、様々な情報を手に入れることができる。また、クラウドを活用することにより、「いつでも、どこでも、だれとでも」互いに学び合い、考えを参照したりすることができる。高橋純（2022）は、「一人一人が自分なりのねらいや課題をもって、自分なりに学んでいく。必要に応じて他者に助けをもらいながら、つまり協働しながら学び、力をつけていくことになると想像できる。一人一人がねらいをもつということは、『個別最適な学び』につながるし、他者に助けをもらったりするは『協働的な学び』と言える」と述べている。ICTを効果的に活用することで、「探究的な学習」の学びは、さらに深まり、汎用的能力である「かでな型学力」を育むことができると考える。

私たちは、一人一人の子供を主語とした学校教育の実現するためにも、研究主題を「かでな型学力」を身につけた児童生徒を育成するために、これまで取り組んできた「嘉手納の探究的な学習プロセス（課題の設定→情報の収集→整理分析→まとめ・表現→振り返り・改善）」の展開において、標準仕様にある汎用的なソフトウェアを教科横断的に活用し「個別最適な学び」と「協働的な学び」を往還する授業づくりの研究に取り組んでいきたい。

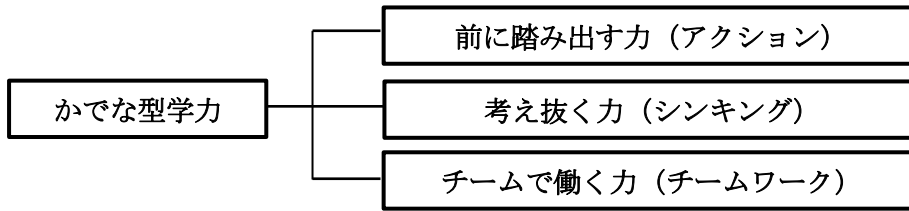
### 3 研究主題における児童像について

研究主題と嘉手納町が定める教育目標、また屋良小学校が定める教育目標を踏まえて、研究主題における児童像を以下に示す。なお示された児童像は令和8年度現在で整理したものであり、令和8年度以降は、児童の様子を見ながら変更していく予定である。

- (1) 嘉手納町教育目標  
ふるさと嘉手納への誇りと自立心を備えた未来の嘉手納を担う子ども
- (2) 屋良小学校教育目標  
一人一人が輝く屋良っ子
- (3) 研究主題における屋良小学校で目指す児童像

学年	目指す児童像
屋良小学校	・主体的に学べる子
からふる 特別支援学級	・相手の話を最後まで聞ける子 ・自分の考えや気持ちを伝えられる子
1 学年	・自分で「学びたい」「やってみたい」と思って行動に移せる子
2 学年	・自分の考えを持ち、誰にでも伝えることができる子
3 学年	・粘り強く、自ら学び考える子
4 学年	・どうしたらわかるようになるかを考え行動に移せる子
5 学年	・気づき、考え、学習し（探究的な学習のプロセス）、課題解決できる子
6 学年	・課題解決に向けて、自分に合った学び方や解決策を選択し、粘り強く取り組む子

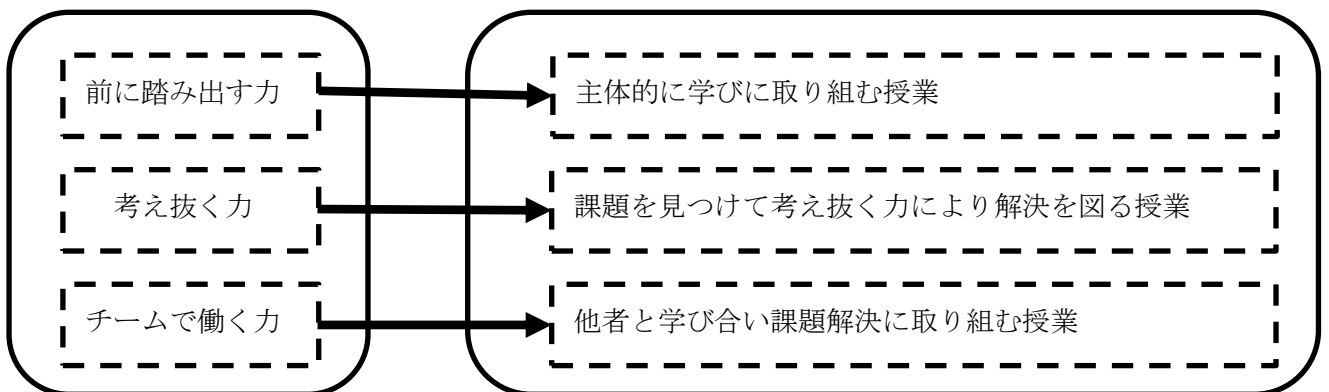
(4) 育てたい資質・能力（かでな型学力）とは



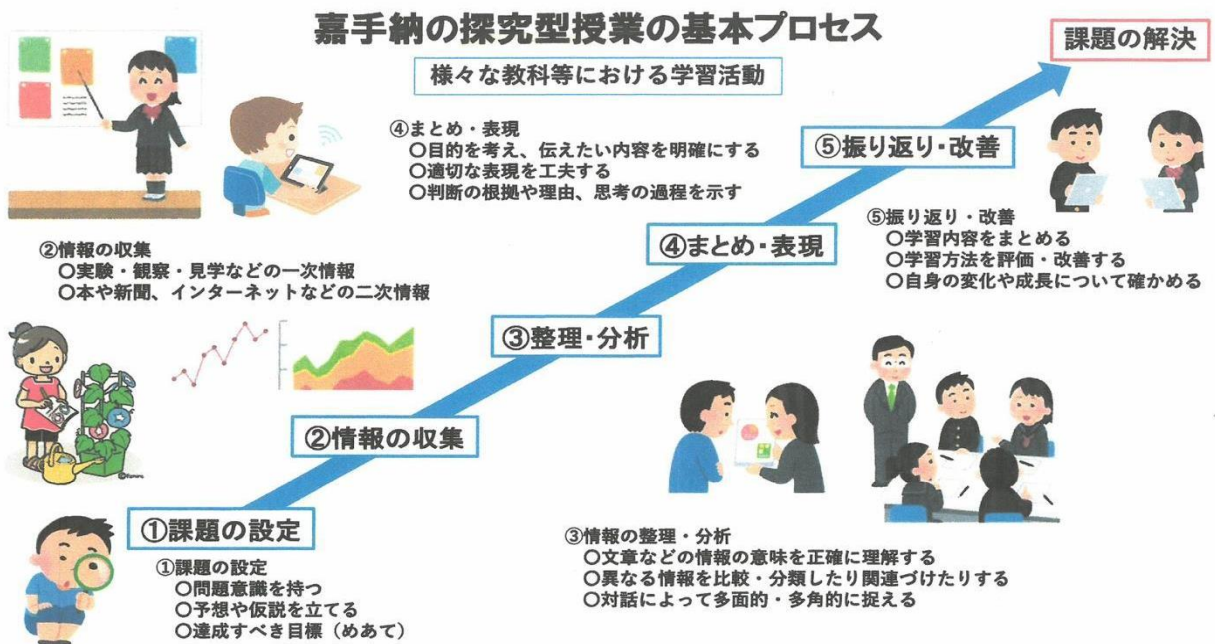
かでな型学力	学力を構成する要素
前に踏み出す力 (一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力)	主体性...物事に進んで取り組む力 働きかけ力...他人に働きかけ巻き込む力 実行力...目標を設定し確実に行動する力
考え抜く力 (疑問を持ち、考え抜く力)	課題発見力...現状を分析し目的や課題を明らかにする力 計画力...課題の解決に向けたプロセスを明らかにして準備する力 創造力...新しい価値を生み出す力
チームで働く力 (多様な人々とともに、目標に向けて協力する力)	発信力...自分の意見をわかりやすく伝える力 傾聴力...相手の意見を丁寧に聞く力 柔軟性...意見の違いや立場の違いを理解する力 状況把握力...自分と周囲の人々や物事の関係性を理解する力 規律性...社会のルールや人との約束を守る力

【かでな型学力】

【「かでな型学力」を鍛える3つの授業の視点】



(5) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を往還する授業づくり  
 -ICTを用いた探究型（複線型）の授業づくり-



【情報活用能力育成するプロセス】

課題の設定	本時の課題を確認する
情報の収集	教科書を読解しながら、各自で「情報収集」する
整理・分析①	収集した情報を各自で「整理・分析」する（思考ツールなど）
整理・分析②	整理した情報を活用して対話をする（思考の質のアップ!）
まとめ・表現	自分が考えたことを言語化するためにまとめる（表現）
振り返り・改善	本時で学んだことや学び方の振り返り

(6) 認め・支え、学び合う集団づくり

「子供一人たりともおいていかない教育」の実現を目指す上で、わからなさや  
 困り感を抱いている子に対して、寄り添い、支え合うことのできる子供同士の関係  
 のある基盤づくりは欠かせない。考えの異なりや違いを超えて「つながる」ことが  
 一人ひとりの学びを豊かにすると考える。

本校が目指す、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の往還する授業の実現に  
 おいても、学びの基盤となる集団づくりが重要であり、他者との関わりをどう生む  
 のか、また重要となってくる。そこで、本校では、学びを支える基盤として「認め・  
 支え、学び合う集団づくり」を目指す。



## 4 研究内容

- (1) ICT を活用した探究的な学習プロセスを機能させた授業づくり
  - ・学びのプロセスにおいて ICT 機器等の情報手段を適切に位置付ける。
  - ・「かでな型学力」を鍛える3つの授業の視点を意識する。
  - ・単元内で働く、教科の見方・考え方を意識した教材研究や授業展開を工夫する。
- (2) 子供が主体的に学ぶ学習環境づくり
  - ・デジタル教科書や掲示物、教具や座席等を活用する。
- (3) 子供の学びの見取りや学習評価づくり
  - ・指導に生かす形成的評価や、授業における評価を検討する。
 (振り返りの充実、指導と評価の一体化、指導に生かす形成的評価の意識)

## 5 研究方針

- (1) 子供の学びの姿(事実)を手がかりにして、全職員で研究主題を追究していく。
- (2) 基本第1・3水曜日を校内研修日と位置づけるが、行事等などで変更することもある。
- (3) 研究授業や理論研修では、講師として大学教員や教育 DX 推進室の指導主事等を招聘する。
- (4) 研究授業や授業研究会では、研究テーマの内容が深められるようにする。  
公開授業については以下の通りとする。
  - ・全員公開授業とする。(年1~2回、町内または県全体への公開授業)
  - ・ICTを用いた探究型(複型)の授業づくり
 ※授業研究会の進め方等は、嘉手納小、嘉手納中の三校で話し合って決める。

## 6 研究方法

- (1) 認め・支え、学び合う集団づくりを土台として、探究的な学習のプロセスにおいて、学習過程に ICT 機器の活用を適切に位置付ける。
- (2) 子どもの学びの姿の見取りを中心とした実践研究に努める。  
(主に、授業での子どもの発言、ノートや作品での記述、年間を通しての学びの姿の変容、児童評価アンケートや i-check、単元テストや標準学力検査の結果、単元や学期ごとの振り返り等)
- (3) 校内研修の授業改善を通して、教師自身が学び成長する。
- (4) 学力向上推進と連携して行う。(「きく力」の向上、授業と家庭学習との連携等)
- (5) 学習支援員と協働で教材資料や教具の充実に努め、次年度の資料として担当学年へ引き継ぐ。

## 7 研究の主な役割

(1) 校長・教頭	
①研究の推進にあたっての指導助言	②研究に必要な諸条件の整備
③予算の計画と執行	④講師の招聘依頼・下校時刻変更の公文作成
(2) 研究主任	
①校内研修の計画・立案・推進	②資料の整備・保管
③授業研究会の準備・授業学年との連携	④招聘講師、連携機関との連絡調整
(3) 全体研究会	
①理論、実技、授業研究会等の開催	②校内研修計画の検討及び共通理解
③研究の評価・改善	④講師駐車場確保・検証授業のチャイム変更(教務)

## 8 年間計画(学校行事やLDX事業の移動などで、日時や内容が変更する場合がある。)

月	日	研修名	内容(案)★公開授業	・関連事業 ○学校行事備
4	3(金)	校内研修①	・令和8年度校内研究主題の確認	・2日 教職員全体研修会① ・20日 キックオフ研修会(東京)

5	13(水)	校内研修②	・校内研修の児童像の共有	・8日 DX 研修会② (嘉手納小)
6	3(水)	校内研修③	・AED 講習	・17日 教職員全体研修会② 13時30分～16時30分(予定) ・22日公開授業研修(小川先生) ・25～26日先進校視察案(愛知県)
	10(水)	校内研修④	・DX 実践&資料共有	
7	1(水)	校内研修⑤	・DX 実践&資料共有	・27日 午前: Google 研修&コア研修 10時～11時30分(予定) 午後: 教職員全体研修会③ 13時30分～16時30分(予定) ・30～31日 LDX 生成 AI 夏季学習会 ・30日 教職員全体研修会③(午前)
	8(水)	校内研修⑥	★嘉手納中学校公開授業研究会	
	22(水)	校内研修⑦	・DX 実践&資料共有	
		校内研修⑧	・魅力ある学校作り	
	校内研修⑨	・夏休み明けの取り組み共有		
9	9(水)	校内研修⑩	・DX 実践&資料共有	
10	28(水)	校内研修⑪	・DX 実践&資料共有	○25日運動会 ・30日全国キャラバン(東京)
11	4(水)	校内研修⑫	・屋良小学校公開授業に向けて	
	13(金)	校内研修⑬	★嘉手納中学校生成 AI 公開授業	
12	1(火)	校内研修⑭	★屋良小学校公開授業研究会	
	16(水)	校内研修⑮	・公開授業の振り返り	
1	22(金)	校内研修⑯	★嘉手納小学校公開授業研究会	○17日屋良っ子発表会・実践報告会
	27(水)	校内研修⑰	・今年度の成果と課題	
2	17(水)	校内研修⑱	・次年度の提案	・3日～4日生成 AI 実践報告会(東京)

※年間計画の内容変更や追加などがあれば共有していきます。

#### 令和8年度屋良小学校校内研修重点事項

- ①「深い学び」に向けた取り組み。
  - ・各教科の見方・考え方を働かせる。
  - ・知識と知識(生活経験)を関連付ける。
  - ・情報を精査して考えを形成する。
- ②協働的な学びを実現する意図的なしかけ。
- ③認知的オフロードを防ぐ教師の関わり。